

七月のテーマ

社員のおかげ



え・城谷俊也

# 苦難で深まった 兄妹の絆

**家**

族経営には、様々なメリッ

トがある一方で、身内なら  
ではの難しさもあります。A氏も  
その難しさを体験した一人です。

A氏は、かつて両親が経営して  
いた飲食店を引き継ぐことになり  
ました。当時は別の会社を経営し  
ていたのですが、二人の妹にも相  
談して、「兄妹で力を合わせて店を  
引き継ぐ」ととオープンを決めた  
のです。両親はとても喜んでくれ、  
友人や知人も、開店までに力を貸  
してくれました。多くの人に支え  
られての船出でしたが、順調だっ  
たのは最初の頃だけでした。

A氏は別会社を経営していたの  
で、実質的に店を切り盛りするの  
は二人の妹でした。二人の内、飲  
食店で働いた経験のある姉が、い  
つも妹に指示を出していました。  
最初は従っていた妹ですが、「こ  
れはこうしなさい」と頭ごなしに  
言われると、次第にストレスが溜  
まりました。妹にも、「こういう店  
にしたい」という夢があり、その  
意見を口にする、ケンカが始ま  
ります。姉妹の仲は日増しに険悪

になり、口も利かなくなってい  
たのです。そうした雰囲気は伝わ  
るのか、客足も減っていきまし  
た。

A氏が時々店を訪れると、店内  
には重い空気が流れていました。  
妹たちの不仲を知ってはいたもの  
の、「よく二人で話し合うように」  
と伝えるだけで、気に留めませ  
んでした。それどころか、「なぜも  
つと気持ちよく働けないのか」と、  
不満すら持つていました。

A氏はA氏で、どうにか店に人  
を呼ぼうと地域の付き合いに顔を  
出し、「自分の力で店がもってい  
る」という自負があったのです。

開店一年目の暮れのこと、些細  
な言い合いから姉妹が大ゲンカと  
なり、妹が店を飛び出していしま  
した。そして、その日に車で大事  
故を起こしてしまつたのです。

時を同じくして、A氏も日頃の  
無理がたたたり、一週間入院するこ  
とになってしまいました。多忙な  
日々から一転、ベッドの上でA氏  
が考えたのは店のことでした。

「もし妹たちがいなければ、ベ  
ッドで寝てなんていらなかった。

ゆつくり静養できるのは、二人が  
店を守ってくれているからだ」

実際、店が継続できているのは、  
二人の妹のおかげでした。それな  
のに「自分がやっている」という  
奢りから、社員である妹たちの相  
談をきちんと受け止めることもし  
なかつたのです。

A氏は、自分の心の内に、「身内  
だからうまくやれるはずだ。大丈  
夫だろう」という甘えがあったこ  
とを反省しました。そして、「兄妹  
で助け合いながら、地に足のつい  
た仕事をしていこう」という開店  
当時の意気込みを思い出し、気持  
ちを新たにしました。

その後、大ゲンカをして飛び出  
した妹も、「心配をかけてごめん  
さい。もう一度働かせてください」  
と頭を下げ、店に戻ってきました。  
事故を機に初心を見つめ直し、多  
くの人ののおかげで今があることを  
痛感したのでした。

兄妹の心が一つになったことを  
両親は誰よりも喜んでくれ、店の  
雰囲気も良くなるにつれて、少し  
ずつお客様も戻り始めたのです。